



問屋町 第41号

すこ 健やかLetter

発行日：2019年11月18日 発行元：協同組合青森総合卸センター

皆さんインフルエンザの予防接種はお済みですか？私達は子供の頃から様々な予防接種を受けてきました——にも関わらず、現在大人になってからの感染が急増している病があります。今回は、その病「風疹」と「帯状ほう疹」についての特集です。

大人は注意！風疹と

若者も注意！帯状ほう疹



「風疹」は子供の頃に多くの人がかかる感染症で、症状が軽い場合がほとんどです。ですが、大人が感染することもあり、特に免疫のない女性が妊娠初期にかかると、お腹の胎児が風疹ウイルスに感染し、難聴や白内障といった障害を持って生まれてくる危険性があるのです。

また、高齢者に多い病「帯状ほう疹」にかかる人が、20～40代の若年層で近年急増しています。

風疹と帯状ほう疹の2つの予防法

- ① 40～57歳の男性に、自治体から「風疹の無料クーポン券」が交付されます。風疹の抗体検査とワクチン接種を無料で受けられますので、ぜひ利用して感染拡大を防ぎましょう。
- ② 皮膚に発疹や激しい痛み・かゆみを引き起こす帯状ほう疹は、免疫力が低下すると、子供の頃感染した水ぼうそうウイルスが再現することで発症します。早めに病院を受診し、治療しましょう。

詳しくは裏面をご覧ください。

もう受け取った？風疹無料クーポン券

今、40～57歳の男性に全国の市区町村から「風疹の無料クーポン券」が届けられています。病院で風疹の抗体検査とワクチン接種を受けると、通常1万2千円程かかりますが、このクーポン券で無料になります。

なぜこの世代の男性にだけクーポン券が配られているのかというと、この世代の男性は風疹の予防接種を受けていないためです。抗体保有率が他と比べて低く、日本でたびたび流行する風疹は、この世代が大きな感染源だと言われています。

今年クーポン券が届くのは40～47歳男性で、48～57歳男性には来年以降届く予定です。また、クーポン券が届かない人でも、抗体検査は自費で受けることもできますし、自治体によっては助成があります。



「水ぼうそうウイルス」で発症！帯状ほう疹



帯状ほう疹は、皮膚に発疹や激しい痛み・かゆみのある病気です。子供の頃にかかった水ぼうそうのウイルスが原因で発症します。実は、水ぼうそうのウイルスは、病気が治っても死滅せず体内に潜み続け、体力や免疫力が低下すると、帯状ほう疹を引き起こします。

これまでは高齢者に多い病気でした。しかし今、20～40代の若年層

でかかる人が増えています。原因の一つとして挙げられるのが、2014年から始まった子供向けの水ぼうそうワクチン定期接種です。

一度水ぼうそうにかかった大人は免疫を持ち、免疫はウイルスに触れることで活性化します。この「ブースター効果」のおかげで、これまで子育て世代は帯状ほう疹を発症しにくかったのです。しかし、水ぼうそうにかかる子供が減り、子育て世代がウイルスに触れる機会も減ったことで、ブースター効果を得にくくなりました。そのため、免疫が弱体化し、帯状ほう疹にかかる危険性が高まったのです。

帯状ほう疹は早めの治療が肝心なので、「かゆいな」と感じたら、早めに皮膚科を受診しましょう。